



私だけの色作ります

11月27日、中山道広重美術館でクリスマスキャンドル（ロウソク）を作る講習会が開かれました。講習会には、親子ら25人が参加。19世紀の西洋版画を見てイメージをふくらませた後、28色のロウのかけらをワイングラスの中に積み上げて、個性的な作品を作りました。色の組み合わせやロウソクの芯を入れるところが難しそうでしたが、最後は雪のように真っ白なロウで仕上げられ、見事な出来栄でした。

ロウのかけらを組み合わせて、私だけの色を作ります



日本の文化で交流を

11月25日、南アフリカ共和国の聖歌隊「ゾラ・セントラルクワイヤー」の皆さんが串原小学校と中学校を訪問し、子どもたちと交流を図りました。小学校では体育館で歓迎会を行い、児童が合唱を披露すると、聖歌隊の皆さんも歌でお返し。その後、各学級でそれぞれ工夫を凝らし、聖歌隊の皆さんと交流を図りました。3年生の学級では書道を体験。漢字の「友」を児童が教え、上手に字を書くことができ、喜ぶ姿が見られました。

3年生と一緒に書道を体験。みんなで漢字を教えました

五平もちに舌鼓

11月28日、恵那駅前周辺で中央通り商店街振興組合がシクラメン祭りを、まちづくり市民協会が五平もち祭りを開催しました。この日は、秋のさわやかウォーキングのため約2千人が恵那駅を利用し、多くの人で賑わいました。駅前ではシクラメンの販売、五平もち祭りの会場では、いろいろな五平もちの紹介や販売のほか、ほお葉寿司、栗おこわ、新鮮野菜、山岡町の寒天、上矢作町の物産も販売され、新市の名物がPRされていました。

炭火の煙に誘われて五平もちを買い求める



育て！カブトムシ

11月24日、武並小学校の3年生から6年生約140人が、学校近くのマレットゴルフ場で落ち葉を拾い、環境整備をしました。落ち葉はトラック7杯ほど集められ、小学校校庭の木箱に入れ、2年ほどかけて肥料にします。肥料には、カブトムシが自然に卵を産み付けるようになり、現在幼虫を約350匹保管しており、全校生徒に配ったり、学校での観察に利用したりするそうです。また肥料はランの花にとってもよいということです。

集めた落ち葉を木箱に入れ、カブトムシのすみかに



親子で作る健康料理

12月3日、中野方小学校で放課後の家庭科室を利用して親子健康料理教室が開かれました。市学校給食センターの管理栄養士、伊藤綾子さんを講師に16組の親子、36人が参加。季節に合った地元の野菜を使って、親子でできるメニューとして、「お好み焼き」「豚肉のそぼろみそ和え」「白菜とむきエビのスープ」「おさつ焼き」の4品を作りました。参加した人たちは「おいしくできたので、家でも作ってみたい」と話していました。

家でのお手伝いの成果もしっかり。手際良く調理が進む



木や竹でひと工夫

11月27日、長島小学校で「誘遊フェスティンおさしま」が開催され、小学生が、紙、竹、木の3つのコーナーでたこやぶんぶんゴマ、木切れや松ぼっくりで飾り付ける壁掛けなどを作りました。きり、小刀、のこぎりで竹を切ったり、削ったり、ボンドで飾りをつけたりとそれぞれ工夫して楽しそうに工作していました。作品が出来上がると、認定証と焼き芋がもらえ、ほかほかの芋をおいしそうにほお張っていました。

木の板に松ぼっくりや、リボンなどで飾り付け



年賀状は絵手紙で

12月2日と9日、上矢作公民館で市民講座「絵手紙で年賀状」が開かれました。「メール全盛の時代ですが、手作りの良さを実感してください」と講師を務めた岩村町の吉村綾子さん。「じっくり観察し、思いついた言葉を添えることが基本です」と呼び掛けると、小学生を含む17人の受講生は、持ち寄った人形や花、野菜などを見ながら、和紙やはがきに筆を走らせていました。

受講生の作品は、21頁に紹介しています。

ダイコンやマスコット人形を見ながら筆が進む



卒業生に花を添える

12月3日、武並小学校の5年生が親子で卒業生に贈るためのプランターを作りました。地元まちづくり町民会議のメンバーが講師を務め、材料を提供。用意された板を組み合わせてくぎを打ち、ガスバーナーで表面に焦げ目を付け、木製の箱を仕上げていきました。このプランターには、落ち葉をたい肥化させた腐葉土と校内のビニールハウスで育てているパンジーを入れて、3月の卒業式に卒業生に贈ることとしています。

親子で力を合わせ作品を仕上げている

世界に一冊手作り絵本

11月17日と12月10日の2回、大井幼稚園で未入園児の親子を対象に「世界に一冊だけの絵本を作ろう」が開かれました。講師は東野の足立伊公子さん。約20組の親子が参加し、厚紙や色紙を使ったオリジナル絵本の作り方を学びました。「子どもの落書きも大切な素材。来年になったら同じ落書きはしません」と足立さん。参加した人たちは、子どもの落書きや写真を使って、成長記録となるような世界に一冊だけの絵本を作っていました。



子どもたちもお手伝い。話しながら一緒に絵本作り

熱演に拍手喝さい

12月5日、山岡農村環境改善センターで山岡歌舞伎公演が行われました。第10回となる今回は「舞踊子供三番叟」「舞踊絵日傘」「浮世柄比翼稲妻」「お染久松浮名の読売」「絵本太功記十段目」「いろは仮名四十七訓義士十二刻」の6題が上演されました。歌舞伎保存会の会員や保育園児、地元小中学生、教職員、市職員らが出演し、舞台上見えを切ったり、せりふを決めたりすると、会場からは盛んに拍手やおひねりが送られていました。



子どもたちの演技が映える「浮世柄比翼稲妻」の一場面



心豊かに性教育を

12月11日、市役所会議棟で男女共同参画講演会が開催されました。講師に「人間と性」教育文化センター所長の田中良氏を迎え、「心を育てる家庭教育と性教育」と題した講演に来場した63人が聞き入りました。講演の中で、「性教育とは幼少から始まる。子どもは生まれた瞬間から不安を持っている。スキンシップを忘れないこと、無条件に話を聞いてあげることが心を豊かに育て、自分や人を大事にできる人になります」と呼び掛けました。

子どもは一人ひとり違うことを絵本から学びました



がま 登り窯の力作ズラリ

12月3日から25日まで山岡陶業文化センターで登り窯作品展が開催されました。作品は7月に完成したばかりの登り窯を使い、9月に5昼夜にわたって焼き上げられたもの。市内はもとより遠くは愛知県新城市などからも参加者があり、100点を超える作品が展示されていました。焼酎の容器や花器、電球のカバーなどの大きなものからはし置きなどのかわいらしいものまでさまざま、訪れた人たちの目を楽しませていました。

登り窯で焼き上げられた力作が並ぶ